

地区	現況・課題	今後の方向性・要望
長伏	○12月2日に防災訓練を実施予定である。例年通りの訓練を行うつもりだ。	○町内で知らない情報を収集したい。
	○10月末、市にプールの脇の体育館の前に下水マスを設置してもらった。プールの水を使って下水を流すことになる。震災の際のトイレの処理の心配がなくなった。	●汚水処理場が使えないということが起こりうる。簡易トイレの検討もしてほしい。備蓄をしている町内会もある。(市長)
	○小学校の周りの液状化が心配される。	●市のHPに液状化が想定される地域が公表されているので見てほしい。(市長)
	○震災時、避難所に運搬車が入ってこられる状態にあるか不安だ。 ○中郷西中学校の校長先生に、中学生に参加するよう声をかけてほしいと連絡してある。	
	○長伏に関しては、かなり盛大な防災訓練をやっていると認識している。(消防団)	●長伏はかなり熱心に防災対策をしていて、市内でもモデル的なところだと思っている。(市長)
	○マンネリ化が一番の問題である。 ○『自宅が無事なら避難所に避難する必要はない』という市長の発言があったが、これを口実に避難訓練は必要ないのではないかと言う住民もいる。マンネリ化が続くと、こういう人がどんどん増え、意識の低下につながってくる。	●訓練に出ない人への対策として、他の地域では『黄色いハンカチ』訓練を行っている。災害がおきた際、玄関に無事を知らせる黄色いハンカチをつるすことで安否確認がとれる。訓練でも、参加の意思を伝えるために行っている。 ○東北で震災に遭った山田町町長が『津波で助かった人は日頃防災訓練に参加している人達だった』と言っていた。伝えてもらいたい。マンネリ化した訓練でも、1年に1回の地震に対する姿勢を学びなおす場所だと理解してもらいたい。
	○小・中学生の参加が毎年少しずつ増えている。 ○公立高校の高校生は、参加の証明をもらうことだけを目的に参加していた。はんこだけもらって帰る人がいたので、2～3年前から訓練終了時に捺すことにした。 ○子供達は参加しても会場で何をしたらよいかわかっていない。遠巻きで見ていることが多いので、今年は可搬ポンプをやってもらった。 ○子供が参加すれば、親も参加するものである。 ○子供会で女子に炊き出しの手伝いをしてもらっている。	○学校の方で、ただ参加するのではなく行って何をするかまで指導してほしい。また、逆に子供達の間でもっとこういうことをやった方がいいのではと意見をだしてもらおう等やってほしい。 ○女子中学生・高校生に三角巾のプロになってもらって、逆に教えてもらうことを期待している。

	<ul style="list-style-type: none"> ○長伏は炊き出し、救護、消火、救出訓練を行っている。(環境美化推進員) ○消火訓練では、20本の消火器を使って火を消す訓練と、可搬ポンプを使う訓練を行っている。(環境美化推進員) ○救出訓練ではチェーンソーを使って木を切る訓練を行っている。小中学生にも参加してもらっている。(環境美化推進員) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○定例会を月に2回行っている。(老人クラブ) ○防災についてはあまり話にのってこない。(老人クラブ) ○老人会に入っている人でも会合になかなか出てきてくれない。入っていない人もいる。(老人クラブ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○直接関心をもってもらえるように、災害が起こった場合、津波高の表示の看板があるとよいのではないかと。(老人クラブ) ●ポストに海拔を表示してある。三島の場合は津波がくることは想定されていない。(きずなづくり推進室) ○今後、自力で避難できる人とできない人の区別が必要である。何かよい方法はないかと。(老人クラブ) ○一人での解決は難しい。自治会に協力してもらったらどうか。(地域まちづくり研究所)
<p>松本</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○11月25日に防災訓練を予定している。 ○防災備蓄品の補助申請をして、今年は、トイレ、食料、毛布を買い足した。 ○松本の公民館が90畳あるので、40人を3日間収容すると想定し、それに足りるよう防災備蓄品の用意をした。今年すべてそろった。 ○防災訓練は毎年同じようなことをやる。 ○中学生は積極的に参加してくれている。 ○市の講師に講演をもらった。今年は『自助と共助』の意識をしっかりとってもらうようにした。 ○6月～11月の月2回、夜間パトロールを実施。毎年交代で3人各組から出してもらい、夜間に町内を3コースに分けて巡回する。町内の細かなところまで様子が分かったという声があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○役員がどう対応していくか考えなければならぬ。特に要援護者対策が必要である。今後考えていきたい。 ●『自助と共助』はとても大切である。(市長) ●『自助』として、自宅が壊れないように耐震補強する、物が倒れてくるところには寝ない、避難所へ行かなくても自宅で生活できるよう、水や食料をできるだけ備蓄しておく、ということ認識する。(市長) ●『共助』として、建物の下敷きになった人がいたら助け合う、避難所で助け合って生活する、火が出たらみんなで消火する、という認識を共有してほしい。(市長) ○校区単位の集まりもよいが、まずは自分達の足元をよくみる余裕をもつことが大切だ。

御園	○御園には病院がない。	
	○第一避難所となる公民館は、まだ耐震診断をしていない。	○来年、耐震診断をして耐震化をしたい。
	○今、防災備蓄品は水しかない。	○今後、毛布や食料など備蓄品をそろえていきたい。
	○今年の防災訓練は、病院も避難場所もなかったため、長伏小学校まで行った。小学校まで1.5キロあり、150人で歩いて行った。 ○要援護者をリヤカーで運ぶことを想定して、実際に人を運んでみたが大変だった。 ○市の訓練を見て、実践に即したものであったので非常に参考になった。みんなに好評だった。	
	○当日、中学生に担架をもってもらった。 ○16時～17時の間に公民館に集ってもらったが、おそらく全員参加していた。	
	○御園では、消火器取り扱い、簡易担架の作り方、簡単なロープワークなどをやった。(消防団)	
長伏小学校	○3.11のときフェアキャストがパンクした。	○デジタルに頼らない連絡方法が必要だ。保護者への連絡方法を模索中である。 ●保護者との連絡方法、学校が子供を預かり保護者に引取りに来てもらう、という学校の対応を地域の人に知ってもらったことが大事である。(市長)
	○PTA はまさしく『子供でつながる』のがスタートである。(PTA) ○長伏小学校区が一番恵まれている。町内会が3つしかないなので、お互いに連携を図れている。(PTA) ○長伏小の半数強が松本幼稚園の出身者であり、3歳からずっと一緒にやってきている。(PTA) ○子供を通じて親同士もつながっている。(PTA) ○一方で、保護者の就労が増え、PTAの活動に参加できない人も増えてしまっている。(PTA) ○子供の見守りやグラウンドの整備など、自治会には協力をしてもらっている。そういう点で地域とのつながりができている。(PTA)	

松本幼稚園	<p>○今年は夏休みに職員の研修をやり直した。</p> <p>○教育委員会で3. 11の状況を CD にまとめたものがあり、それをみんなで見た。</p> <p>○中郷西中が第2避難所になっているが、まだ園児達を避難という形で連れて行ったことがない。夏休みに職員が避難経路の確認をした。</p> <p>○年長の園児に中郷西中の場所の意識づけをした。中学3年生と交流授業があったので、そこで訓練してもらった。</p>	<p>○年少の園児も中郷西中に連れて行く予定だ。</p> <p>○今後、態勢をしっかりと整えて、随時保護者にも伝えていきたい。</p> <p>○震災時には、幼稚園で子供達を中郷西中に連れて行き、保護者もそこに来てもらうという形を徹底しようかと考えている。</p>
中郷西中学校	<p>○3. 11以降、少しずつ参加人数が増えていると聞いている。</p> <p>○『自分の命は自分で守る』というのは大前提である。</p> <p>○3. 11のとき、中学生が地域のために活躍したと聞いている。</p> <p>○中学校で受け入れという形で幼稚園と交流授業を行っている。</p>	<p>○まず、自分の安全を確認させた上で子ども達を地域にかえし、地域のために貢献できるよう指導していかなくてはならない。</p> <p>○子ども達に参加を促していかなくてはならない。</p> <p>○中学校で、防災訓練に積極的に参加し、きずなを作るよう生徒に指導してほしい。防犯の方でも中学生には活躍してもらいたい。(長伏)</p> <p>○災害発生時、中学生が年少児を連れて誘導できるようにすることを今後の課題として検討している。</p>
全体	<p>◇避難について</p> <p>●避難所は、長伏と御園は長伏小、松本は中郷西中になる。長伏小学校区は避難所が2つに分かれる。子供が間違えて避難する場合がありますので、保護者がしっかりと把握しておく必要がある。(市長)</p> <p>◇地域行事について</p> <p>○今年の運動会は約400人参加した。(体育振興会)</p> <p>○小学生を中心にやっているのだから、子供と接触することは十分にできる。顔を見て挨拶ができている。(体育振興会)</p> <p>○毎年役員が変わる。その年は参加しても次の年は参加しない人もいる。(体育振興会)</p> <p>○PR 活動をしようとはしているが、なかなか伝わらないのが現状である。(体育振興会)</p> <p>○ティーボール大会をやった。14校区で各校区1チームずつ出して競技を行っている(スポーツ推進委員会)</p> <p>●運動会を活発にして、大勢の人の参加を促してほしい。それがきずな作りにつながり、災害のときしっかり助け合いができるようになる。そういった認識を広めてほしい。(市長)</p> <p>○今後もスポーツを通して子供と大人、地域の人達をつなげることをしていきたい。(スポーツ推進委員会)</p>	

◇若者の地域参加について	
<p>○伊豆総合高校の PTA 会長をやっているが、高校生は家庭での会話が少ない。地域とのつながりが非常に希薄である。(長伏)</p> <p>○伊豆総合高校では、地域とのつながりを作るために、全員ではないが子供達が駅前の清掃活動をしている。(長伏)</p>	<p>○各家庭で日頃から親と子の会話を増やし、災害のとき役に立てる人になれるように話をしてほしい。(長伏)</p> <p>○地域や行政で、そういう子供達を育てられる大人作りをまずしてほしい。(長伏)</p>
○中学生の防災訓練への参加義務化を三島市の市議会が要請した、という記事が静岡新聞に載っていた。行政でそういった動きがある。(長伏)	
◇地域の連携	
<p>○今日は20人弱集まった。前回より参加者が少ない。(御園)</p> <p>○専門的なことを一般の人は知らないのに、発言を求められるからみんな会議に参加しなくなる。(御園)</p>	<p>○次回から、みんながもっと気楽に参加できる会にしていきたい。(御園)</p>
	<p>○今、自治会単位でのきずなが薄れてきている。そうすると自分達で何かをしようとしたときに力が出ない。行政でも自治会までは手が回らない。何とかしようという校区単位の集まりを設けた。各団体が連携していかないといけない。校区で力を合わせて何ができるか今後も話し合っていきたい。(環境市民部長)</p>